

講座ピックアップ

ドイツ語圏の知という豊かな海に漕ぎ出すために
「歴史・社会・文化研究のための基礎ドイツ語」

柳原 伸洋

(当該講座講師、東京女子大学歴史文化専攻教員・
アウクスブルク大学客員研究員)

ドイツ語圏は、文学や哲学のみならず、歴史・社会・文化研究の分野でも世界的に重要な成果を上げています。これらにアプローチできれば、一気に「知の世界」を拡げることができます。今、日本の多くの大学ではドイツ語精読を地道に続けることが難しいカリキュラムになっています。そこで本講座では、文の構造から文意・語源まで考えながら地道にドイツ語をせっせせせと「亀の歩み」で読んでいきます。

ドイツ語で書かれた論文や解説文のなかから一ヶ月でワンテーマを決めて読みます。ですので、月ごとの講座参加も可能な設定になっています。このテーマ決めも受講生の希望を聴きつつ、なるべくそれに近づけるようにテキスト選びをしています。今までのテーマを紹介しておきましょう。

2020年

- 9月：パブリックヒストリー（公共の歴史）に関する入門書
- 10月：ナショナルヒストリーとグローバルヒストリーに関する最新の研究まとめ
- 11月：戦後ドイツにおけるポーランド関係
- 12月：大学院入試ドイツ語の過去問題

2021年

- 1月：ナチ・ドイツ時代の芸術雑誌（同時代資料）
- 2月：ジョージ・モッセ『大衆の国民化』の書評文
- 4月：バイエルン史の入門書
- 5月：ハンナ・アーレント『全体主義の起源』の書評文
- 6月：強制収容所における「玩具」（一般向けの書籍）
- 7月：ユルゲン・ハーバーマス「一種の損害補償」の原文と日本語訳2つとの対照比較
- 9月：ヒトラー『わが闘争』の注釈版
- 10月：東ドイツの言語
- 11月・12月：大学院入試ドイツ語の過去問題

2022年

- 1月：オーストリア現代史
- 2月：ドイツ・ポーランド共通教科書

2020年10月の論稿は、「ドイツ連邦政治教育センター」が発行しているもので、インターネットで「Nationalgeschichte und Globalgeschichte, APuZ」と検索すると出てきますので、ぜひご覧ください。学問が積み重ねてきた知見が反映された読み応えのあるものです。

列記したように、テーマは人文社会科学を中心に幅広いものになっています。ただし講師の専門がドイツ近現代史であることから偏りはあります。これは専門性という観点からは避けられないのですが、新規講師による分野開拓など今後の改善を目指したいと

思います。もちろん全文を読むわけではなく、本当に短い部分を丁寧に読んでいきます。同時にドイツ語知識だけではなく、学問の入り口や大学院などで必要とされる知識や思考法、また調査方法に至るまでお伝えもしますし、文法書や研究書の情報交換もしています。また、大学院入試ドイツ語も扱っているように、大学院受験の口頭試問対策も視野に入れた講座です。

この講座はZOOMを用いてオンラインで開講し、グループワークを活用しています。講師が一方的に話をするのではなく、グループワークを利用して参加者それぞれがドイツ語の文にどう取り組んだか、解釈したのかを互いに知り、そこでの訳の疑問点や議論を全体場で報告してもらいます。そうして一文一文を丁寧に解釈していくことで、ドイツ語を読むための言わば「足腰」を鍛えるのです。これは学術論文を読むためだけではありません。たとえば「駆け足、マラソン、競歩、徒歩、登山」とも呼ぶべき多種多様なドイツ語文章にも対応できるような基礎体力づくりができます。そして、このグループワークは、本講座の別の目標とも関わっています。それは学問のドイツ語履修者間の「交流」です。コロナ禍は私たちのコミュニケーションを寸断しました。しかし同時にオンラインは強化されました。この強みを活かし、日本全国そして世界中の学問ドイツ語にチャレンジしたい人びとをつなぎ、いつかどこかで受講生同士が対面でも交流してほしいという願いがあります。苦境を好機とすることを目指しています。実際に北海道や広島など、さらにはドイツからの参加もあります。そして、その月の最終週にはオンライン交流会（自由参加）を催して、雑談を通じた情報交換を行っています。

2022年4月からの新学期からは、プロイセンの歴史と記憶やドイツ・ポーランド共通教科書の別の箇所を予定しています。もちろん大学院入試問題にも取り組みます。さらに、思想史や現代的テーマを扱った論稿にもチャレンジしたいと思います。とくに2022年2月末に始まった「ロシア・ウクライナ戦争」について、ドイツの学問的知見がどのように意見していくのか等も扱えればと思っています。講座自体は「亀の歩み」ですが、しかし着実にドイツの知を吸収できるように今度も工夫していきたいと思います。

現在の講座参加者は若い世代中心ですが、今までシニア世代の受講者もおられましたし学びたい気持ちさえあれば誰でも参加できます。同時に、ドイツ語の「型」が見えてくると、ずっと文意が見えてくる快感も大事にしています。ぜひ、ドイツ語圏の文章が提供してくれる豊かな知の海に漕ぎ出しましょう。

「歴史・社会・文化研究のための基礎ドイツ語」

毎週水曜日 19:00～21:00 オンライン開催

月ごとの参加も可。

新学期は4月6日開講。テキストは「プロイセン軍国主義」を予定しています。